

1980年の北アルプス 行き返りの列車を推理する

当時の計画書がないので、どんな列車で往復したか、正確なところはわからない。当時の時刻表を入手し、推理してみた。

立山と剣の登山で雷鳥沢に2泊（8月3日と4日）、
五色が原への移動と停滞で2泊（8月5日と6日）、
スゴ乗越1泊（8月7日）、
折立1泊（8月8日）、
高山で1泊（8月9日）。

今回の北アルプスのコースは、富山が玄関口となる。

アルバムの写真の見出し、各写真の裏書きとから、わかっていることは、

- 1、長崎の出発は1980年8月1日、帰着は同8月11日。（アルバムの見出し）
- 2、行きは長崎発は、急行出島。（長崎駅での写真）
- 3、行きがけ、鳥栖で乗換に余裕があった。（鳥栖寿屋からの写真）
- 4、帰りは、高山から岐阜に出ている。（列車で乗り合わせたボーイスカウトの写真）

当時は、周遊券で、急行の自由席までなら追加料金なしに乗車できた（410頁）。

前年利用した大阪までの夜行急行雲仙は1980年10月1日に廃止されるまで運行されていた。富山電気鉄道富山駅は国鉄富山駅に隣接している。

推理の結果

行きは、8月1日長崎発、夜行で大阪へ、8月2日北陸本線で富山へ、明るいうちに室堂に到着し、弥陀ヶ原ホテルを見（写真を撮り）、雷鳥沢にテント設営しているはずである。

8月1日8時8分長崎発、急行出島2号博多行、10時32分鳥栖着。208頁

13時45分鳥栖発、門司港下関行、16時34分下関着。198頁

17時2分下関発、広島行、20時48分広島着。98頁

21時5分広島発、岡山行、8月2日0時19分岡山着。98頁

2時31分岡山発、急行鷺羽新大阪行、5時18分大阪着。100頁

7時25分大阪発、急行立山1号糸魚川・宇奈月温泉行、北陸本線、12時17分富山着。229頁

12時44分電鉄富山発、13時56分ごろ立山着。481頁

14時30分立山発、ロープウェイ、14時37分美女平着。481頁

14時45分美女平発、バス、15時40分室堂着。481頁

室堂ターミナルから雷鳥沢キャンプ場まで徒歩1時間5分、テント設営。

ちなみに却下されたものは以下の通り。

鳥栖から大阪直行の夜行急行阿蘇は大阪着が遅く、キャンプ場着が遅すぎる。

18時55分鳥栖発、急行阿蘇大阪行、8月2日7時50分大阪着。200頁、101頁

7時58分大阪発、急行たかやま飛騨古川行、9時39分米原着。101頁

10時12分米原発、急行くずりゅう3号金沢行、12時44分金沢着。229頁

13時6分、富山行、14時8分富山着。229頁

14時45分電鉄富山発、15時59分～16時9分ごろ立山着。481頁

16時20分立山発、ロープウェイ、16時27分美女平着。481頁

17時20分美女平発、バス、18時15分室堂着。481頁

ちなみに、前年乗車した急行雲仙の上りはさらに遅く、18時54分長崎発、9時57分新大阪着。8月2日のうちに、雷鳥沢キャンプ場にたどり着けない。

帰り

太郎平キャンプをしなかった1日分で高山に宿泊した。

8月9日9時10分折立発、バス、10時35分有峰口着。481頁

11時00分有峰口発、11時55分電鉄富山着。481頁

13時40分富山発、急行のりくら8号名古屋行、15時32分高山着。227頁

旅館泊（飛騨やんさに合わせて盆踊り）

飛騨の里での写真がある。高山駅前からバス9分の飛騨民族村の中だ。8月10日に観光し、高山から岐阜に出て（高山～岐阜間でカブスカウト乗合写真有り）、大阪に向かい夜行急行雲仙で長崎に帰ったと思われる。実に円滑！

14時51分高山発、急行たかやま大阪行、20時17分大阪着。227頁

20時42分大阪発、急行雲仙長崎行、8月11日10時57分長崎着。88頁

周遊券の利用で、富山まで、行きは北陸本線、帰りは高山本線に乗った。

高山で遊んだのは太郎平にキャンプしなかったことによる偶然だった。太郎平にキャンプしていれば、当然富山から、そのまま大阪にもどって、長崎に帰ったはずである。

8月10日9時10分折立発、バス、10時35分有峰口着。481頁

11時00分有峰口発、11時55分電鉄富山着。481頁

12時25分富山発、快速福井行、13時16分金沢着。234頁

14時10分金沢発、急行加賀4号大阪行、18時20分大阪着。234頁

20時42分大阪発、急行雲仙長崎行、8月11日10時57分長崎着。88頁

以上、“乗ったであろう”列車を推理してみた。2020年6月記す